

2016年度 学校自己評価集計表

実施期間：2017年7月27日～8月4日

評価基準： 4 適切 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 不適切

評価項目	平均	自己評価
1. 教育理念・目標	3.4	【課題】
・理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	3.8	・様々な学生が入学してきており、質の変化に伴うことによる学習習熟度が十分ではなく、資格が取得につながらない学生がいる。 ・教育方針については、これまで創り上げてきた学科の方針を大切に受け継ぎつつ、プラスして目の前の学生の特性を踏まえ、専門・キャリア・人間教育の向上を具体的に明確化していくことが課題。
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	2.9	【今後の改善方策】 ・YMCA全体としては、ジェネラリストの育成にこだわらず、スペシャリストの人材育成を行う。各学科の強みを本気で作る。各学科の専門性を生かして地域貢献していくことで、認知度を高め、募集につなげる。
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3.1	・社会のニーズ調査・把握し、得意分野の打ち出し方の検討。 ・熊本YMCA学院が目指す方向性を、より分かりやすくし、高校生や受験希望者に分かり易い校名や学科名を検討する。
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.6	【特記事項】 ・特になし
2. 学校運営	3.1	【課題】
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.3	・学生募集において、高校生の進路と専門学校を目指す分野のニーズがマッチしていない場合がある。 ・学生数減少に対する早急な対策が必要だが、広報、学生の獲得のため、イメージ戦慄が職員の中で共有できていない。
・事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3.3	
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効にきいているか	2.9	【今後の改善方策】 ・各学科、学院全体での取り組みの可視化を進め、より見える化する発信していくための手段の検討・実施。
・人事、給与に関する制度は整備されているか	2.8	・広報活動の評価および改善。
・教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	3.1	・企業や関連業界におけるマーケットリサーチの徹底を行い、各委員会からの客観的な視点で意見をいただき、運営に活かす。また、将来構想において最重要課題を抽出し、プライオリティーを検討し、着手する。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.2	【特記事項】 ・職員一人ひとりが募集マインドを意識し取り組む。今後とても大事になってくる。
・教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.1	
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.1	
3. 教育活動	3.2	【課題】
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.4	・教職における経験の違いからくるスタッフ間の意識の差がある。 ・各自の専門分野について最新の知識技術を得る機会（研修や研究）、指導法についての研修が少ない。
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.4	・カリキュラムは、改善の余地がある。側面としては、質の面（現場の意見）と経済性の面（教員の授業）である。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.5	【今後の改善方策】 ・カリキュラムは適切ではあると思うが、もっと精査していきながらカットできるものや新たに含めることが出来るもの等検討が必要。
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.1	・入学当初から専門科目の割合を増やし、より専門性を高め、実習や就職活動、資格取得に向けての準備を早期に整える。
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3.2	・全体の質を上げていくための職員一人ひとりのスキルアップ。 ・人間教育の実践の深化。 ・企業が企画するセミナーへの勉強会に参加。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.5	
・授業評価の実施・評価体制はあるか	3.2	【特記事項】 ・特になし
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3.7	
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.5	
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.2	

・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務を含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3	
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	2.8	
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	2.7	
4. 学修成果	3.2	【課題】
就職率の向上が図られているか	3.4	・就職支援において、1人1人の様子の把握や、ミスマッチが無いようにこまめに個々との関わりが必要。 ・全学科における、検定及び資格試験の受験率、合格率。
資格取得率の向上が図られているか	3.2	・退学に関しては、適性と志望動機の弱さが考えられる。進路変更もあるが志望動機が薄いため起こることの要因は大きい。 ・卒業生のキャリア形成を追跡が不十分である。卒業生との繋がりに関して、戦略的に行えていないのが現状である。
退学率の低減が図られているか	3.1	【今後の改善方策】 ・定期試験・検定対策の強化。希望者を募り、小人数での放課後勉強会の実施を検討。
卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	3.4	・社会人として、人と関わる仕事に取り組んで行くという事を踏まえ、コミュニケーション能力、臨機応変に対応できる力、挨拶など身につけられるための授業の工夫。 ・リカレント教育の実施）。 ・同窓会機能のシステム化。
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2.9	
5. 学生支援	2.9	【課題】
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.1	・学生一人ひとりに寄り添ってはいるが、もっと学生が思っている事を引き出せるような関わりなどが必要。自分自身と向き合う機会に乏しい。
学生相談に関する体制は整備されているか	2.9	・学力的に厳しい学生やスペシャルニーズを持つ学生への対応。 ・卒業生求人（既卒求人）に対応できない。
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3.4	【今後の改善方策】 ・社会人のニーズを調査し、教育環境や新たな授業内容の研究につなげる。
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.8	・校内支援委員会を活用し、1人1人の支援の在り方や方法を考えながら、学生自身が前に進めるような支援を行う。
課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.9	・卒業生人材バンク等の制度の検討（メール登録、既卒求人情報を流せるシステム作り…等）。
学生への生活環境への支援は行われているか	2.8	【特記事項】 ・特になし
保護者と適切に連携しているか	3.5	
卒業生への支援体制はあるか	2.7	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2.1	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	2.9	
6. 教育環境	2.7	【課題】
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるような整備されているか	2.4	・長年使用しているものなどもあり、修理や購入するものもある。また、施設、設備、実習施設、トイレ等の老朽化 ・新人スタッフが少なく、職員の高齢化が進んできている。 ・震災後、まだ補修工事が終わっていない教室がある
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	【今後の改善方策】 ・備品購入における計画的に進めていく。 ・業界の現状に対応した、最新設備の導入を計画的に行う。 ・将来を見据え、若いスタッフの人材確保について考える。
防災に対する体制は整備されているか	2.6	・建物のリノベーション（トイレ改修等）の検討。 【特記事項】 ・特になし
7. 学生の受け入れ募集	3.3	【課題】
学生募集活動は、適正に行われているか	3.2	・熊本YMCAに専門学校があるという認知が広がっていない。 ・学科の特性を明確化できていないところもあり、説明が十分できない部分がある。 ・高校生以外の入学者（社会人、留学生）を増やす必要がある
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.2	【今後の改善方策】 ・学科紹介DVDなど、視覚的に学科の特性を説明できるものを作成する。 ・SNSを活用し、それぞれの学科の売りをアピールし、Y M C Aらしさが何かを再度考え、広報の仕方など工夫する。地元有名企業に就職された卒業生に協力依頼する。

学納金は妥当なものとなっているか	3.4	【特記事項】 ・特になし
8. 財務	2.7	【課題】
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.1	・学生数の減少が財務に大きく影響している。入学者減による収入減。 ・建物改修資金を生み出せない。
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.5	【今後の改善方策】 ・入学者を増やすための方策を検討する（スポーツ特待生等）。広報強化。 ・専門学校の規模についての再考。 ・校名、学科名、学科再編の検討。 ・学生募集強化（建物は影響する）、支出削減（建物が古いがゆえに支出することも多いが）。
財務について会計監査が適正に行われているか	3.5	【特記事項】 ・特になし
9. 法令等の遵守	3.6	【課題】
法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営が行われているか	3.9	・個人情報の取り扱いをもっと慎重にする個人・団体としての意識 ・自己評価における問題点の課題解決はできていないように感じる。
個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	3.5	【今後の改善方策】 ・問題点の集約と問題提起をする機関が必要。また、シェアし、解決策を出す研修等の実施の検討。
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.3	【特記事項】 ・特になし
10. 社会貢献・地域貢献	3.6	【課題】
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.5	・教員の専門性や、体育館や教室等の施設を活用した地域とのつながりが不足している。 ・日常におけるボランティアにいく学生の減少傾向が見られる。一方で、熊本地震にはのべ300名以上の学生、卒業生、教職員が参加実績がある。
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.8	【今後の改善方策】 ・教員の専門性を活かした公開講座、地域での活動に活かす。 ・地域の人を巻き込んだ行事を行いながら、幅広い年齢での関わりが出来る機会の提供。 ・地域の方への講座を開催し、地域の方から意見をもらい、地域貢献に繋げるとともに、専門学校の認知を広げる。
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に行っているか	3.5	【特記事項】 ・特になし
11. 国際交流	3.2	【課題】
留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3.2	・留学生に対して案内を配るだけになってしまっている。 ・留学生に対する職員の理解が十分ではない。
受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等が取られているか	3.7	【今後の改善方策】 ・留学生との交流や関わりの機会を増やす。 ・留学生向けに募集説明会を実施し、視覚的にも訴える。
学習成果が国内外で評価される取り組みを行っているか	2.9	・留学生のサポート体制。漢字などの専門用語が多く、授業が理解できていない学生には、個別に指導。 ・職員の英語力の向上
学内で適切な体制が整備されているか	2.9	【特記事項】 ・特になし